

☆☆矢野目小学校教育目標☆☆互いを大切に、笑顔で協働する子ども

令和6年度矢野目小学校 学校だより

みんなの広場 2

笑顔があふれ、明日もまた来なくなる学校

2024.7.3 発行 No.43 文責 目黒 満

☆☆自ら学び、深く考えて行動する子ども☆☆心と体を鍛え、命を大切に子ども

学校の up date の一つとして、今年度 AIドリル「スマイルネクスト」を上学年で採用しました。課題としてだけではなく家庭学習教材として、自分の進度で取り組みます。「みんなが同じ課題を同じペースで」という価値観は本校では up date 対象です。下学年のお子さんで AI ドリルに挑戦したい場合は ¥1,320- で小 1~中 3 まで 5 教科ドリルの年間利用ライセンスが購入できます。興味のある方は、学校までお問い合わせを！

家庭と学校ががっちり手を繋ぐ2年目に

価値観や考え方の Up date の中でも、子どもは親の姿を見て学んでいます

右の記事のような対策は、年々先が見えなくなる感のある温暖化進行に対応せざるを得ない状況にあります。夏の高温化、酷暑化の進行が、夏場のスポーツ場面で子どもたちの命に関わるレベルまで進んだという変化への対応=up date の一例と考えます。この対応は、夏の甲子園大会での酷暑・熱中症対策に端を発した対応のようです。野球に限らず他の種目でも、また私たち学校も子どもたちの命を守ることを最優先に、学校生活・教育活動の up date 場面が生じているように思います。

記事では、「試合時間を午前 8:30~10:15 と午後 4:00~5:45 の枠内に収める」としています。学校でも陸上大会へ向けた練習をこれまでは放課後に行っていましたが、昨年度からは、登校後すぐに開始し、1 校時目を中心に取り組みました。

今朝も、学校では WBGT (熱中症指数) を計測。気温は 29℃、WBGT は 26 度、運動指針だと「警戒」レベルとなり「適宜水分・塩分の補給と激しい運動中は 30 分おきの休憩」となります。(昼前から天気も変わり WBGT も一気に下降)

今が本番の水泳でも、以前から入水条件として気温・水温の下限が設定されていましたが、今では上限も設定され、「熱中症予防のため、水温+気温が 65℃以上の場合水泳授業には適さない、WBGT が 31 度以上は「原則運動中止」規定されています。天候変化に対応した up date です。

暑さ対策とは異なる Up date の一つになりますが、先日、中体連の全国大会種目が半分近くに削減されるという記事が大きく扱われていました。中体連大会の種目数の削減については、チームスポーツが各中学校単位では成り立たなくなってきたことが大きな要因の一つです。その背景には、

- 少子化の進行による各学校の生徒数の減少
- 生徒の趣向の多様化による運動部員の減少
- 大人数のチームスポーツが好まれない傾向



- 校外クラブチーム等で活動する生徒の増加
 - といった「子どもの変化」が大きな要因であると同時に、教員の働き方改革の一環として
 - 大会を運営・引率する先生方の負担軽減 という点も含めた up date だと考えます。
- お子さんも、いずれは中学校に進学し「部活動をどうするか」という問題に向き合います。(今後は部活動だけでなく校外クラブまで範囲が広がります。) 個人的には、中学校・高校等での部活動は、その後の自分の人生にとっても大きな影響を与えたと感じています。部活動に限らず、学校での様々な出会いは、その後の生き方や考え方に大きな影響を与えます。

親の世代とお子さんの世代の価値観は、違って当然です。そんな中でも、しっかりとお子さんと向き合い、お子さんの考えに傾聴し、親としての思いも伝えながら日々のコミュニケーションを充実させていきましょう。ただし、親の価値観の「押しつけ」は思春期の子どもの反発の好材料になってしまいますのでご注意ください。

「子どもは、親の言ったとおりに育たない、親のするとおりに育つ」と言われます。運動や文化的なもの、あるいは他との交流等を親自身が楽しむ姿を見せ、その姿から子どもたちが学ぶことで、様々なことに意欲的に取り組む子どもが育っていくのではないのでしょうか。



酷暑、試合中でも打ち切り

全国スポーツ少年団熱中症対策で

日本スポーツ協会が今夏に開く全国スポーツ少年団軟式野球交流大会の熱中症対策で、気温と湿度などから算出する暑さ指数(WBGT)をインテグレーション計測し、基準の31度以上になった場合は直ちに試合を打ち切る方針を固めた。関係者が27日明らかにした。試合は比較的気温の下がる午前と夕方のみに実施し、選手の安全確保を徹底する。28日にも正式発表する。

酷暑下のスポーツ大会開催を一部導入するなど、各大会主催者も健康、安全の方が大切だと語った。

開始前にWBGTが31度以上の場合、31度未満に下がる、より踏み込んだ対策となる。

打ち切った時点のスコアで勝敗を決め、同点の場合は抽選で勝者が上がるチームを選べ、日本スポーツ協会は「全国から集まる子どもたちに試合をさせてあげたいのはやまやまだが、勝敗よりも健康、安全の方が大切」と語った。

全国スポーツ少年団軟式野球交流大会の熱中症対策

開始前	<ul style="list-style-type: none"> 暑さ指数(WBGT)が31度未満なら試合開始 31度以上なら試合を開始せず、5分ごとにWBGTを計測 31度未満になったら試合を始める。待機時間は1時間が上限
試合中	<ul style="list-style-type: none"> 各インテグレーション開始前にWBGTを計測し、31度以上なら試合を打ち切る。その時点のスコアで勝敗を決め、同点の場合は抽選
その他	<ul style="list-style-type: none"> 「熱中症特別警戒アラート」が発表された場合は翌日の試合を全て中止

下がるまで試合を始めない。4月に運用が始まった「熱中症特別警戒アラート」が出た場合は試合を中止する。

大会は8月2~4日に鳥取県で開催され、全国各ブロックの代表計16チームが参加する予定。試合は午前8時半~10時15分と、午後4時~5時45分の枠内に収める。千葉県で行われた昨年度大会は、午後5時半以降に試合を行うなどの日程変更を開幕直前に行った。